

草の芽句会だより

NO,113,
18, 1 月



香煙の燻ぶる札所雪催い
門前の十月桜あはあはし

純子

初夢に仕事着の夫帰り来し
嫁ぎきて植えし柗花盛り

貞

手を振って別れ行く子や日脚伸ぶ
正月の金毘羅参り人の波

節子

穏やかな一日となりて寒の雨
風花の漂うまゝに失せにけり

貞子

留守宅の生家の門の注連飾り
練り上げし伝統工芸冬の街

範子

苔の庭歩めば凍てし音のして
うつすらと大師の山も雪化粧

芳子

雑炊の湯気を楽しみ冬籠
大寒の晴れたる空に飛行雲

文子

一斉に鳩飛びたてる刈田かな
大霜や玉ねぎの苗か細くて

禮子

人混みに名前呼ばれし初詣
石仏に日射しの淡き野水仙

剋子



三ヶ日は小春日和に恵まれ、神社は初詣の人々で大賑わい。総本山善通寺でも、参道には長蛇の列が出来、夕方になってもますますの賑わいである。あきらめて遠くから手を合わせで帰途につく人の姿も。本堂には幾本もの蝋燭の炎が揺らめき、香煙の白い流れが絶え間ない。昨年まで句会場だった職場の建物が取り壊し中のため今月は全員投句ということに。お正月はこの家庭も忙しいせいかわかっていたわあ、投句で」という声も。そして締め切りを待たずして全員の句が寄せられたのには世話係一同大喜び。忙しい時はいつもに増して気合いが入る私たち?? こんなに充実した会報となった。今年もまた皆元気で城山へ上りたいものである。